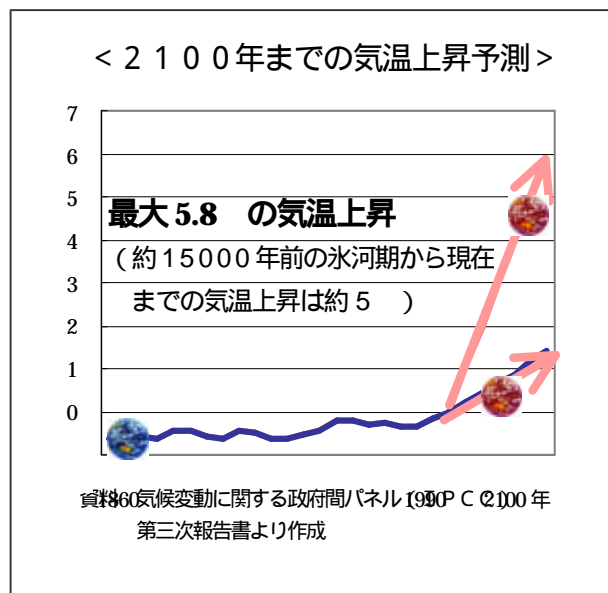


地球温暖化について

今後100年間で、
最大5.8度の気温上昇(平均気温)が予測

1900年から2000年までの100年間で
地球の平均気温は、0.6度上昇

地球温暖化の影響はすでに現れている。



原因は、温室効果ガス(主にCO₂)の増加

わが国の温室効果ガス排出量は、石油、石炭、天然ガスなどのエネルギーを起源とするものが約9割

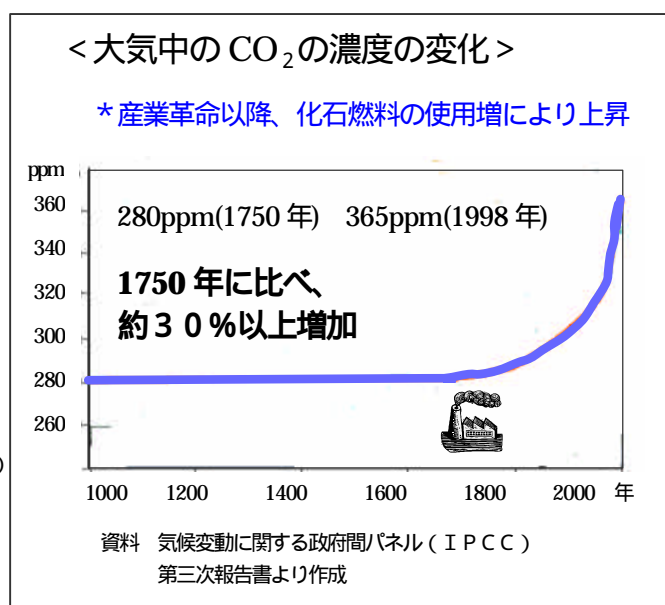
過去50年間に観測された温暖化のほとんどが人間活動によるものという、新たな、かつより強力な証拠が得られた

- CO₂の大気中の濃度は、1750年にはおよそ280ppmであったものが、1998年には365ppmと30%以上増加
- このままでは21世紀の終わりまでには540~970ppm(1750年比90~250%の増加)になると予測
- CO₂など温室効果ガスは大気中に残留する時間が長く、仮に大気中の濃度が安定したとしても、その後数百年間、地球の平均気温と海面水位は上昇し続ける。

* 温室効果ガス
温暖化の原因となる気体(CO₂、メタン、フロン類など)

出典及び参考文献

IPCC 地球温暖化第3次評価報告書
JCCCA発行パンフレット『急激に温暖化し20世紀、危機はすでに始まっている。地球温暖化防止のカギ握る日本』



地球の平均海面水位は、今後100年間で最大88cm、
今後50年間で最大30cmの上昇が予測

- 熱帯、亜熱帯の小さな島国は、もっとも深刻な影響を受けやすいと考えられている。
- 海面水位の上昇は、沿岸の侵食を拡大し、その結果、国土が水没することにもなりかねない。

出典及び参考文献

IPCC 地球温暖化第3次評価報告書
JCCCA発行パンフレット『急激に温暖化し20世紀、危機はすでに始まっている。地球温暖化防止のカギ握る日本』

影響は、海面上昇だけに留まらない。
 感染症の増加等の人間の健康への影響や、水不足、生態系の変化、食生活への影響、砂漠化等も懸念

危険度が増す感染症

日本でも、マラリアを始めとした熱帯性の感染症の流行など、健康が脅かされる



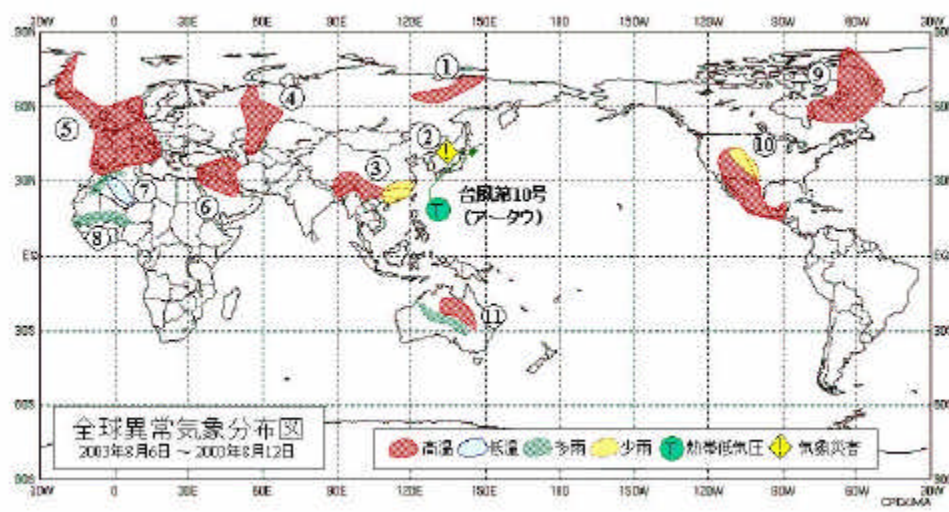
病名	媒介動物	リスクにさらされる人口	現在の年間感染件数又は発生件数	現在の分布域
マラリア	蚊	24	3億	熱帯・亜熱帯
住血吸虫症	淡水系巻貝	3~6	1億2,000万	熱帯・亜熱帯
リンパ性フィリア症	蚊	10	1億2,700万	熱帯・亜熱帯
日本脳炎	蚊	3	5万	アジア
オゾンセルカ症	ブヨ	1.2	—	アフリカ・中南米
デング熱	蚊	30	数千万	熱帯
黄熱病	蚊	4.68 (779万人)	20万	南米熱帯地域・アフリカ

出典:IPCC第3次評価報告書第2作業部会資料より作成

出典及び参考文献

- IPCC地球温暖化第3次評価報告書
- JCCCA発行パンフレット『急激に温暖化し20世紀危機はすでに始まっている。地球温暖化防止の力か握る日本』
- JCCCA発行パンフレット『青い地球の物語 地球温暖化を止めるために』
- 環境省発行パンフレット『STOP THE ondanaka2001 温暖化の新たな証拠と予想される深刻な影響』

2003年夏、異常気象が多発



出典
 全球異常気象監視速報(気象庁)

異常気象による経済損失は、この50年間で急速に増大

異常気象による世界全体の経済損失は、1950年代の年間約40億USドルから1990年代の年間約400億USドルへと、既に10倍に増加した
 (全て1999年USドル、購買力平価での調節はなされていない)

この損失の約4分の1は開発途上国のものである。

出典及び参考文献

- IPCC地球温暖化第3次評価報告書
- JCCCA発行パンフレット『急激に温暖化し20世紀危機はすでに始まっている。地球温暖化防止の力か握る日本』

